

2016 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語 2

内藤 真理子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、初級後半の学生を対象とし、1) 初級後半の表現を使って日常会話ができるようになること、2) 身の回りのことについて事実や感想をまとめた長さで表現できるようになることを目標とした。授業は週5回あり、『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』をメイン教材として使用した。扱った課は第36課から第50課である。

2. 授業内容

授業の設計を行う際に留意したのは、教科書の各課に配置された文法の理解とその練習に終始するのではなく、四技能をバランスよく伸ばすことであり、副教材も用いて、二つのクラス目標が達成されることを目指した。実際の授業では、主に、1) 文法、2) 会話・作文、3) 読解を扱った。1) の授業は予習を重視し、語彙や文法は事前に自習をしてきているものとして授業を進めた。宿題は予習に時間を割けるよう、復習の比重を減らした。2) の授業は、『日本語おしゃべりのたね』『日本語読み書きのたね』を抜粋し、各課2回に分けて行った。1回目は教材をもとに会話をし、2回目はモデル作文の読解と作文準備のプレインストーミングを行い、宿題として作文を書いた。第一稿に対して教員が直接訂正を行い、学生は添削を参考に作文の修正を行った。3) は宿題として課した『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 初級で読めるトピック 25』の読書ノートを授業で共有した。

3. 成果と今後の課題

今学期は、予習重視の宿題を課した。アンケートでは、宿題の内容や量に対する「ちょうどいい」の度数が16人中13人と最も多かった。4技能に対する満足度の項目では、どの技能も「満足している」の度数が最も多かったが、「聞く」に対しては、「あまりそう思わない」の度数が5であり、他の項目よりも高くなっていた。自由記述で「少なかった」と書かれていたものは、会話(2)、聞く(1)、読む(1)であった。反対に、「多かった」と自由記述に書かれていたものはなかった。前述したように、文法に偏らず、四技能を伸ばすことを主眼に置いた授業であったが、十分ではないと考えている学生もいることがわかった。授業全体に対する満足度に関しては否定的な評価をしている学生はいないため、シラバスの大幅な変更をする必要はないと考えるが、活動の内容や授業での扱い方についてさらに検討をしていきたい。